

団体名 座間味村立座間味中学校	連絡先 TEL : 098-987-2030 E メール : zamamit1@woody.ocn.ne.jp
--------------------	--

1 実践事項 (②)

タイトル：「 自律的に家庭学習に取り組む姿勢の育成 」

2 実践内容

(1) はじめに

知識基盤社会の到来やグローバル化の進展、さらに絶え間ない技術革新等により、社会は急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。学校教育において、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力を身につけさせることが求められている(文部科学省, 2018)。つまり、時代が変わっても自ら学び続けられる自律的な学習者を育成することが重要な課題となっている(奈須, 2017)。また、本校は高等学校のない離島にあるため、いわゆる「15の春」を迎えるとほとんどの生徒が親元を離れ、寮やアパートで生活しなければならない。生徒自身で主体的に学習するだけでなく、掃除や洗濯などの家事との両立を図るなど、生活面を含め自らマネジメントする力を育むことが求められる。

一方で、第1回沖縄県生徒質問紙調査(6月実施)の結果では、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の項目において、肯定的な回答(当てはまる、どちらかと言えば当てはまる)をした生徒の割合は43.8%に留まり、半数以上の生徒が計画的に勉強をしていないことが示唆された。また、同項目の3学年においては、肯定的な回答をした生徒は0%という状況であり、自律的に家庭学習に取り組む姿勢を育むことが急務であることが示された。

(2) 課題の設定

生徒が自律的に家庭学習に取り組む姿勢を育む

(3) メタ認知能力の育成

自律的な学習者を育成するに当たって重要なのがメタ認知能力を育てることである。メタ認知能力とは、「自分にとって適切な目標を設定し、それに照らして妥当な学習計画を立案、遂行し、目標と現状との関係を吟味し、必要あれば計画を修正するといった、複雑な過程を伴うプロセス」である(奈須, 2017)。いわゆるPDCA(Plan, Do, Check, Action)サイクルを学習者自身が実践する能力と言える。さらに、奈須(2017)は、メタ認知能力の下位能力として、①オンライン・モニタリング、②メタ知識の2つを挙げている。オンライン・モニタリングとは自分の学習過程をもう一人の自分がモニターして状況に応じて制御する認知スキルであり、メタ知識とは自分が何を知っているか、何ができるかに関する知識である。生徒が自分自身の学習状況を把握し、自分が得意なことや苦手なことを認識することがメタ認知能力の育成において重要だと言える。本校では、メタ認知能力を明示的に指導しており、生徒には以下のように説明している。

メタ認知能力=自分を成長させる力

①自分が得意なこと、苦手なことがわかる。

②自分を成長させる方法(学び方)を知っている。

③自分自身を成長させるために、計画(plan)、実行(Do)、振り返り(Check)、改善(Action)のサイクルを実行できる。(学習のPDCAサイクル)

(4) 家庭学習を支える下位能力

家庭学習の充実を図る上で重要なのが、教師と生徒、そして家庭でベクトルを合わせて学習状況の改善に取り組むことだと考える。家庭学習を通して身につけたい力を明らかにすることによって、生徒が家庭学習に取り組む意義を理解でき、教師や家庭はどのように支援するかが明確になる。家庭学習を支える下位能力として、田中(2017)の「家庭学習力モデル」を参考に8つの力を示した。

【家庭学習力モデルの領域と項目】

- ①学習習慣（宿題、習慣、復習）
- ②生活習慣（時間、睡眠、食事）、
- ③自律心（準備、整理、自立）、
- ④自己学習力（計画、目標、教え合い）、
- ⑤自己コントロール力（苦手、集中、克服）、
- ⑥自己マネジメント力（記録、反省、改善）、
- ⑦生涯学習力（社会、辞書、読書）、⑧自己成長力（評価、得意、夢）

(田中, 2017)

中学部における課題の改善するための取組として「家庭学習力アップ大作戦」を実施した。家庭学習力モデルに基づいた質問紙の結果をレーダーチャートとして可視化することで生徒それぞれの課題を把握するようにした。(図1参照)

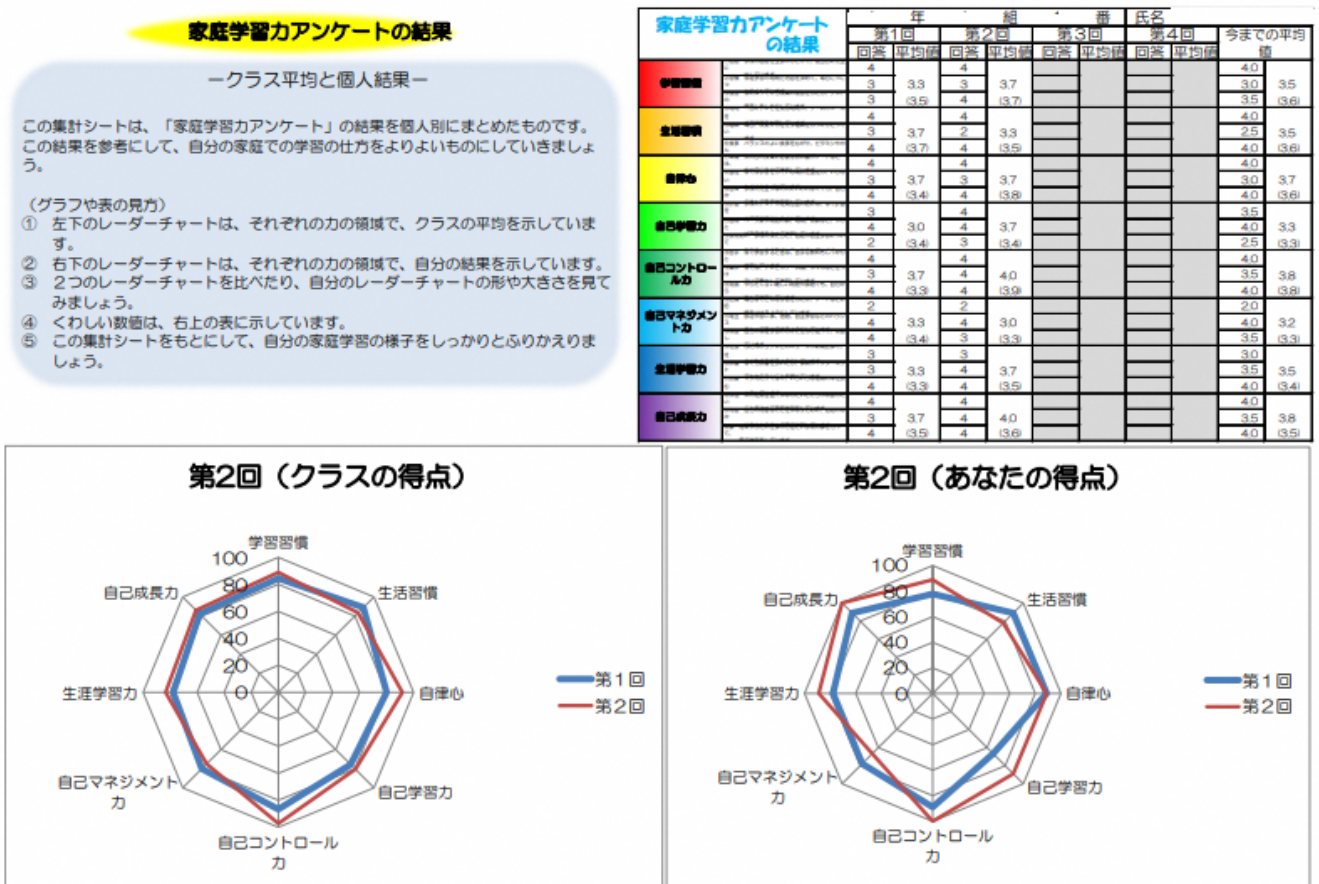


図1：「家庭学習力レーダーチャート」

(5) 指導の実際

①事前活動

- ・Google フォームで家庭学習や生活習慣等に関するアンケートを実施する。
- ・アンケートの結果をレーダーチャートにして、それぞれの家庭学習力を可視化する

②特別活動 (10月27日(金)の保護者参観にて実施)

- ・導入 授業のねらいの説明
- ・レーダーチャートの配布→ワークシート①に良い点・改善点をまとめる(別添資料①を参照)
- ・ロジックツリー(思考ツール)を用いて、問題点を整理する(別添資料②を参照)
- ・効果・実行しやすさマトリックスを用いて、対応策をまとめる。(別添資料②を参照)
- ・話し合いマニュアルを用いて、小グループで意見交流を行う。(別添資料③を参照)
- ・「私の宣言」として今後の目標を設定する。

③事後活動

- ・生徒は私の宣言に基づいて、家庭学習に取り組む。
- ・家庭学習チェック表を用いて、生徒の家庭学習の取り組み状況を可視化する。
- ・10月30日(月)～11月10日(金)までを家庭学習強化旬間とし、担任・副担任で分担して家庭学習帳を点検し、コメントをする。11月1日(水)及び8日(水)を「プリンシパルデー」として、校長先生に点検とコメントをしてもらう。
- ・振り返り：11月の第4週の帰りの会で、1カ月間の家庭学習の取り組みを振り返る。
- ・第2回家庭学習力アンケート(12月の第4週)：Google フォームでアンケートを実施し、第1回と第2回をレーダーチャートをもとに振り返り、私の宣言を再設定する。(図2、3参照)
- ・1月以降については、レーダーチャートをもとに定期的な振り返りを実施し、継続的に取り組む。

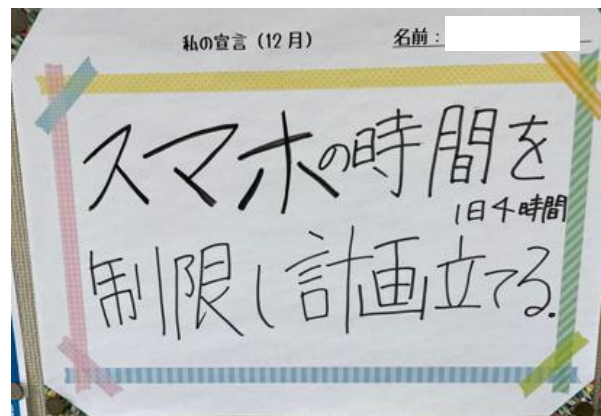
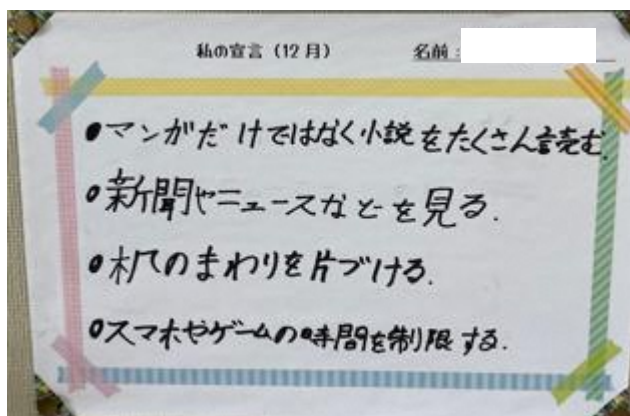


図2、3：「私の宣言」

3 説明資料(写真、グラフ、図、表など)

(1) 沖縄県生徒質問紙調査の比較

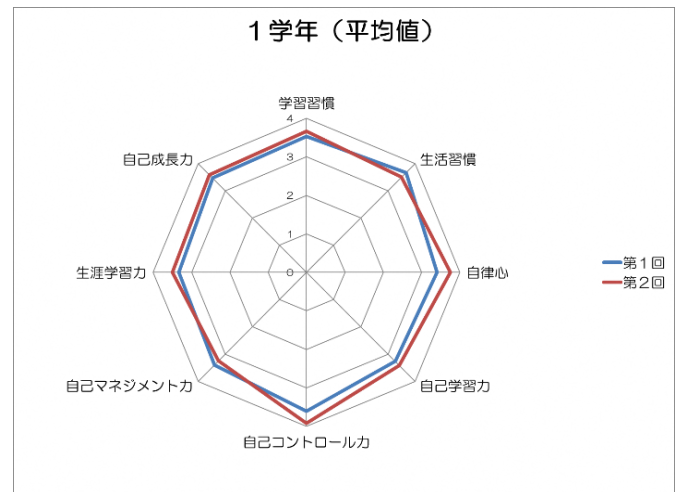
6月に実施した第1回調査と11月に実施した第2回調査の結果を比較すると、質問項目(8)「家で自分で計画を立てて勉強していますか」において、第1回は43.8%(16名中7名)が肯定的な回答であり、第2回では46.7%(15名中7名)が肯定的な回答となった。この結果はほぼ横ばいとして捉えることが適切だと考える。日頃の生徒の様子を観察していると取組以前よりも家庭学習に取り組む姿が見られるが、生徒の意識の中で自信を持って、計画を立てて勉強をしているとは言い切れない部分が残っていると考えられる。つまり、家庭学習の習慣化については一定の効果が現れているが、自律的に学習するという姿勢にまでは達していないと言えよう。今後は、生徒一人ひとりの改善点に寄り添いながら、継続指導していく必要がある。

(2) 家庭学習力レーダーチャートと生徒の振り返り

① 1 学年

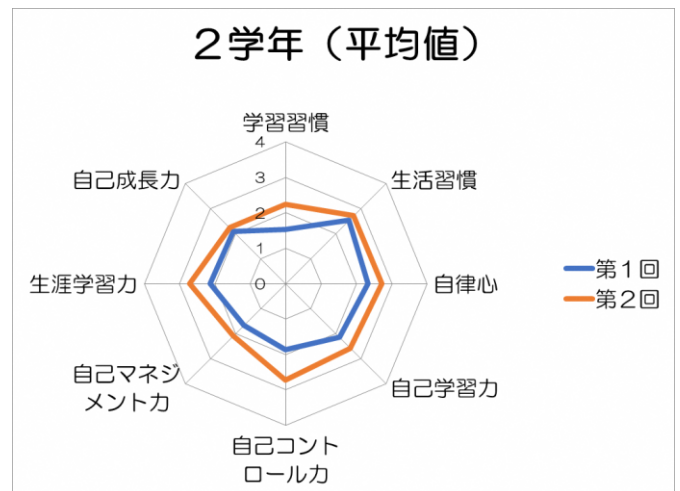
第 1 回、第 2 回ともに全体的にバランスが良いのが特徴である。家庭学習が習慣化されており、振り返りにおいてもそれぞれの課題を認識し、改善に取り組む姿勢が見られる。

1 月の振り返りでは、「漢検と数検があるから、それに向けての計画を立ててみたり、記録を付けるようにして習慣づけたい。」という記述があり、自己学習力や自己マネジメント力を意識した振り返りができている。家庭学習力モデルを活用したことで生徒がより意識的に改善使用としてることが伺える。



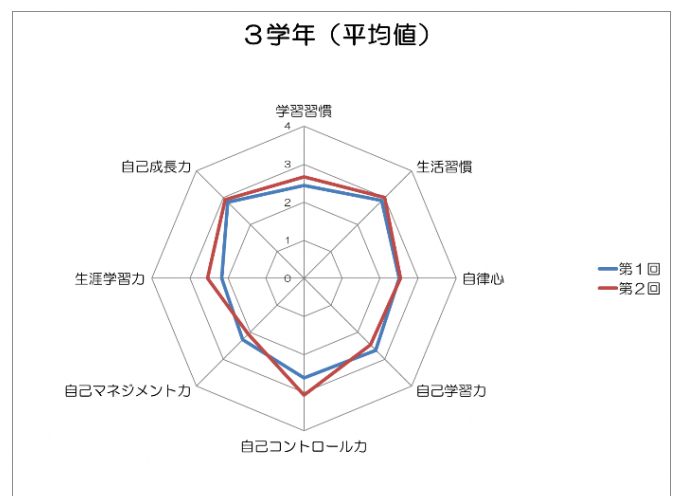
② 2 学年

第 1 回のチャートに表れているように全体的に家庭学習の習慣化が課題となっていた。家庭学習の意義を認識していない生徒が多かった。家庭学習力モデルを活用して身につけたい力を明らかにしたことによって、家庭学習に取り組む姿勢が改善されたと考える。第 2 回のチャートでは特に学習習慣と自己コントロール力が大きく改善されている。1 月の振り返りでは、「生活習慣は早寝早起きができるようにする」、「家庭学習の量や家庭学習時間を増やしたりもう少し自分で出来るようになるようにする」といった記述があった。主に学習習慣や生活習慣に関して、改善する必要があると感じていることが伺える。



③ 3 学年

第 1 回に比べて第 2 回では自己コントロール力が向上している。受験を目前に控え、家庭学習の意識が高まっていることが伺える。1 月の振り返りでは、より具体的な記述が見られた。「自立心だけ下がっていて身の回りの整理整頓や事前準備、率先して行動することができていないので、この 3 つを後回しにしないで行動していきたい」「自分の苦手な教科を中心的に勉強するなど自分で考えて勉強していきたい」「家庭学習をするときにめあてをたて振り返るようにする。間違えたところを振り返り次解けるように改善点を見つけながら勉強する。」などと自分の課題を把握して、改善方法を見いだすことができている。



4 成果

- 「家庭学習力アップ大作戦」の取組を通して、家庭学習の習慣化につながった。
- 家庭学習力モデルを活用することで、教師と生徒がどのような下位能力に焦点を合わせて向上させるか認識しやすくなった。

5 課題

- 指導者の観察では、家庭学習に対する意識が向上していると見とれるが、沖縄県生徒質問紙のデータに表れるほど向上していない。今後も継続的な指導が必要である。

参考文献

奈須正裕 (2017). 『「資質・能力」と学びのメカニズム』. 東京, 東洋館.

田中博之, 編 (2017). 『アクティブラーニングが絶対成功する！小・中学校の家庭学習アイデアブック』
東京, 明治図書出版社

文部科学省 (2018). 『中学校学習指導要領』 東山書房.

自分の生活と学習をデザインしよう！

年 番 名前：

①「あなたの得点」を見て気づいたこと

良い点	改善したい点
-----	--------

②「クラスの得点」を見て気づいたこと

良い点	改善したい点
-----	--------

③2つのグラフを比較して気づいたこと

良い点	改善したい点
-----	--------

④話し合い ①～③を発表して、自分が「どうすれば良くなるか」アドバイスをもらおう。

()さん

()さん

()さん

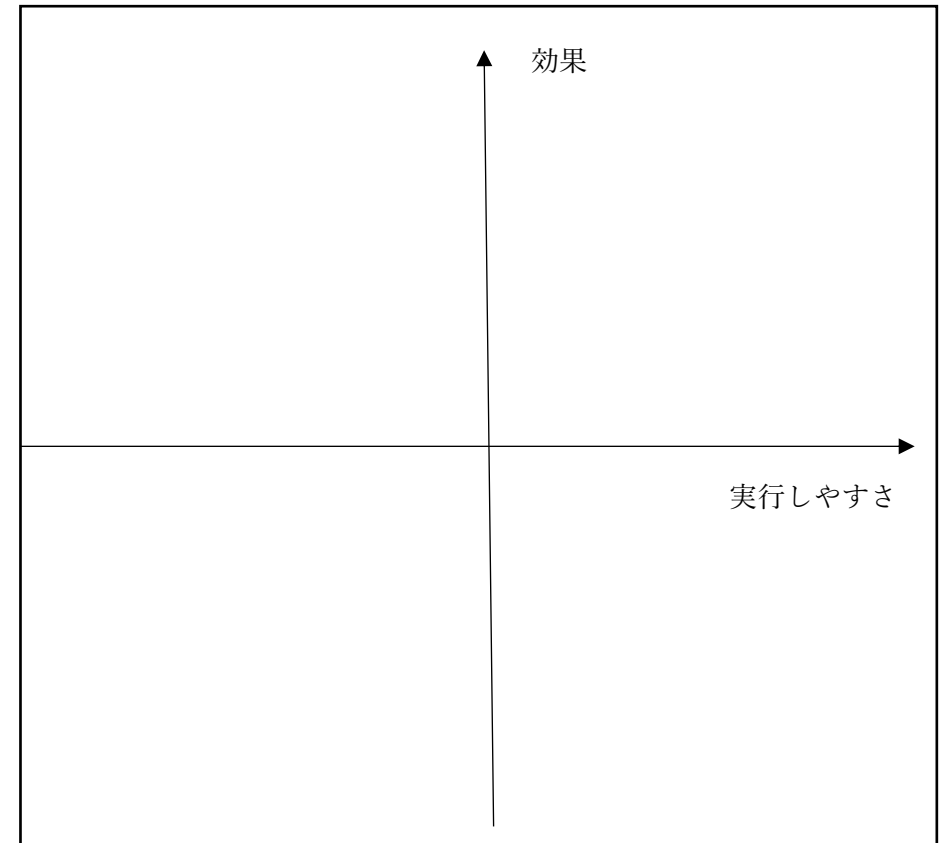
()さん

私の宣言

ロジックツリーで改善点を分解しよう！

名前： _____

☆効果・実行しやすさマトリクスを使って対応策を考える



話し合いの進め方

1. 話し合いの目的を確認する

司会者 「では、話し合いを始めます。課題を『自分の生活と学習をデザインしよう』です」

2. 意見を出し合う (①「あなたの得点について」)

司会者 「まず、自分の得点を見て気づいた良い点と改善点を、自分のグラフをみんなに見せて、説明しながら発表してください。」

「では、まず()さんから、どうぞ。」

発表者 「私の得点を見て気づいた点で、まず良い点は()です。理由は……。そして改善したい点は()
です。理由は……。」

3. 意見を出し合う (②「クラスの得点について」)

上の「2」を参考に

4. 「分解の木」、「効果・実行のしやすさマトリクス」で対応策を発表する

司会者 「分解の木」で整理した問題点、「効果・実行しやすさマトリクス」で考えたみなさんの対応策を発表していきましょう。